

京都学習センター学生控室（多目的室含む）等の利用について

新型コロナウイルス感染症の位置づけが 5 類へ移行した後の学生控室等の利用について、昨年アンケートおよびサークル等代表とのインタビューを実施しました。その結果をご報告するとともに、新しい利用方法についてお知らせします。

1. アンケートの実施

学生控室の利用方法について、2023 年 11 月 24 日から 12 月 24 日までの 1 ヶ月間、連携協定校に所属する学生を除く 2,196 名に対しアンケートを実施しました。

アンケートへの協力依頼回答総数は 408 名。内訳は、学部生が 385 名（94.4%）、大学院生が 23 名（5.6%）でした（質問 1 1 への回答から）。

2. アンケートへの回答の概要

具体的な回答状況については別紙としてまとめました。以下は、質問項目ごとにまとめた概要です。別紙をご覧ください。

質問 1 「現在の学習センターの利用について教えてください。来所の頻度はどのくらいですか？」への回答：

「ほとんど行かない」と回答した人が 162 名（39.7%）と最も多く、「まだ行ったことがない」と回答した 74 名を加えると、57.8%となり、半数を超えます。さらに、「1 学期に 1 回以上 5 回以下」と回答した人も、124 名（30.4%）とかなりの割合になります。この 124 名の中で、次の質問 2 で「面接授業のため」と回答している人は 71 名で、124 名の半数以上にとって、学習センター利用の目的のひとつが面接授業であることがわかります。なお、平均して月に 1 回以上学習センターに来所している人も、合計で 41 名（10.0%）と、少ないながらも約 1 割には達しています。

質問 2 「学習センターに行く目的を教えてください」への回答：

複数回答可の質問項目なので、複数回答をしている人の意見がより反映しやすい点に注意する必要がありますが、合計 766 回の選択のうち、「手続きのため」が 224 回（29.2%）、「面接授業のため」が 155 回（20.2%）選ばれていて、この 2 つだけで全回答回数のほぼ半数に達します。これに、類似すると思われる「窓口で質問をするため」、「特別講義や講演会に参加するため」、「学習相談（学修懇談会）のため」まで加えると、合計で 487 回（63.6%）に達します。やはり何らかの用事で学習センターに行く人が多いようです。一方、自習や図書利用、再視聴のためとの回答は合計で 201 回（26.2%）、「学友と交流するため」と「サークルや学友同窓会の活動のため」のような交流活動のために学習センターを利用するとの回答は、合計で 66 回（8.6%）でした。

質問3「学生控室（休憩室）の利用について教えてください」への回答：

この質問に回答して下さった399名中357名(89.5%)が「現在は利用していない」と回答しました。利用している人は約1割に留まっていることがわかります。

質問4と5「利用の目的を教えてください」・「利用する頻度を教えてください」（質問3に「現在利用している」と答えた方に対して）への回答：

質問3に「学生控室を現在利用している」と回答した人に、利用目的を複数選択可で尋ねた結果、「その他」を含め4件の選択肢が合計78回選択されました。平均、1人1.86件の選択肢を選択していることになります。もっとも多く選択されたのは「食事のため」で31回、次いで「休憩のため」が28回で、この2つを合わせると59回(75.6%)と、ほぼ3分の2となります。一方、「学友と交流するため」は14回選択され、17.9%を占めます。また、現在学生控室を利用している人のうち、25名(51.0%)が、「学習センターに行くとはほぼ必ず(学生控室)を利用する」と回答しており、学生控室を利用している人の中では利用の頻度がかなり高いことがわかります。

質問6「以下のうち当てはまるものを教えてください」（質問3に「現在は利用していない」と答えた方に対して）への回答：

357名（無回答3名を含む）中、86名(24.1%)と、学生控室を現在利用していない人の4分の1近くが、新型コロナウイルス感染症対策で閉鎖される以前は、学生控室を利用していたことがわかります。また、62名に上る「その他」と答えた人の中には、自由記述欄への回答からわかるように、学生控室が閉鎖された後に入学した人も多く含まれていることが考えられます。従って、感染対策以前利用していた人で現在は利用をやめている人の割合は、もっと高くなることが推測されます。

質問7「当時の利用の目的として当てはまるものを教えてください」（質問6に「感染症対策で閉鎖される前は利用していた」と答えた方に対して）への回答：

もっとも多かったのは「休憩のため」で79回、次いで「食事のため」が70回で、この2つを合わせると149回(72.0%)と、質問4への回答で「食事のため」や「休憩のため」と答えた人の合計と同じく、ほぼ3分の2となります。一方、「学友と交流するため」と「サークルや学友同窓会の活動のため」は、合わせると51回(24.6%)選択されており、現在よりは交流活動にもかなり利用されていたことがわかります。これは、現在、サークルや学友同窓会の活動に学生控室が利用できないことの影響があると思われますが、その影響はそれほど大きくないことも伺われます(24.6%→17.9%)。

質問8「今後の(学生控室の)利用方法として、以下のどれがもっとも望ましいと思いますか？」への回答：

この質問は、今後の学生控室の望ましい状況について、比較的具体的なイメージを伺おうとしたものです。質問に何らかの回答をして下さった393名のうち、「現状のまま(閉室のまま)でよい」と回答した人は10名(2.5%)であり、多くの方が学生

控室の利用を望んでいることがわかります。利用方法としては、「現在の休憩室とつなげて休憩室を広げる」を選んだ人が112名(28.5%)でもっとも多く、「サークルや学友同窓会が利用する」を選んだ41名(10.4%)、「学生が許可を得て利用するプリンター等の機材の設置場所とする」を選んだ37名(9.4%)は、いずれも1割ほどに留まります。この結果は、以下の質問10に「都合がつけばできるだけ利用したい」と、今後積極的に利用を考えている112名の回答者での分布を見ても、「現在の休憩室とつなげて休憩室を広げる」を選んだ人が44名(39.2%)でもっとも多く、「サークルや学友同窓会が利用する」を選んだ18名(16.1%)、「学生が許可を得て利用するプリンター等の機材の設置場所とする」を選んだ13名(11.6%)と、やはり「現在の休憩室とつなげて休憩室を広げる」を選んだ人がもっとも多い点は変わりません。回答者全体を対象とした場合に比べ、「サークルや学友同窓会が利用する」や「プリンター等の機材の設置場所とする」を選んだ人の割合は少し増えています。

ただし、この質問に対しては、「どれでもよい」、「わからない」を選んだ人も多く(合計171名で回答者の43.5%)、学生控室を利用していない人には具体的なイメージが湧かなかった可能性があります。

質問9「今後の学生控室(休憩室)の環境として希望する条件を教えてください」への回答：この質問では、質問8に比べ、やや抽象的な条件のうち望ましいものを選んでいただきました。複数回答可としたため、質問2と同じように、複数回答をしている人の意見がより反映しやすい点に注意する必要がありますが、「その他」を含めて9件の選択肢が、合計で1167回選択されました。このうち、もっとも多く選択されたのは、「いつでも気軽に利用できる環境」(264回、22.6%)で、続いて、「飲食ができる環境」(225回、19.3%)でした。さらに、「静かな環境」(153回、13.1%)と「混み合っていないこと」(138回、11.8%)が続き、以上で約66.8%、つまり約3分の2に達することがわかります。

ところで、選択肢「静かな環境」と「ひとりで過ごせる環境」は、いずれもひとりで静かに食事や休憩などをするために利用したいという希望を反映していると考えられるのに対し、選択肢「学友と気軽に交流できる環境」と「新しい学友と知り合える環境」は、どちらかと言うと学生同士の交流のために利用したいという希望を反映していると考えられます。ここで、仮に前者をまとめて「ひとり系」の選択肢、後者を「交流系」の選択肢と呼ぶことにします。すでに述べたように、この質問ではひとりの人が複数の選択肢を選ぶことができます。そこで、「ひとり系」を選ぶ人と「交流系」を選ぶ人がどのように分布しているかを集計してみたところ、以下のような結果となりました。

表 1：回答者毎の質問 9 への回答傾向

選択肢のカテゴリ	選択した回答者数
ひとり系のみ選択	136
交流系のみ選択	76
両方選択	55
どちらも選択せず	141
合計	408

どちらのカテゴリの選択肢も選ばなかった回答者が 141 人 (34.6%) ともっとも多かったのですが、いずれかのカテゴリの選択肢をひとつでも選んだ人は、「ひとり系」で 136 人 (33.3%) だったのに対し、「交流系」のみを選択している回答者は 76 人 (18.6%) でした。両方のカテゴリを選択した人も 55 人 (13.5%) いましたが、「ひとり系」のみを選択した人や「交流系」のみを選択した人に較べると少ないことがわかりました。

質問 10 「今後の学習センターの利用について教えてください」への回答：

回答者の皆さんが、今後どの程度学習センターのご利用を考えているかを伺いました。その結果、「都合がつけばできるだけ利用したい」と、積極的に利用を考えている人が 112 名 (27.5%) いることがわかりました。しかし、「利用したいと思ったときに利用できればよい」という、やや消極的なご意見の方は、それより多く、159 名 (39.0%) でした。さらに、これに「用事があるときに行くだけだと思ふ」(109 名、26.7%) と「行かなくて済むならば行きたくない」(12 名、2.9%) を加えると、利用に消極的な方は合計で 280 名 (68.6%) となり、3 分の 2 を超えてしまいます。学習センターを利用していただくための方策が必要と思われまます。

また、質問 1 の現在の学習センターの利用状況と較べてみると、以下の表に示すようになります。

表 2：現在の学習センター利用状況と今後の利用見通し

	都合がつけばできるだけ利用したい	利用したいと思ったときに利用できればよい	用事（面接授業を含む）があるときに行くだけだと思ふ	行かなくて済むならば行きたくない	その他（無回答を含む）	合計
ほぼ毎日	3	1				4
週に 1、2 回	8	3			1	12
月に 1 回以上 3 回以下	16	8			1	25
1 学期に 1 回以上 5 回以下	43	53	24		4	124
ほとんど行かない	28	69	59	3	3	162
まだ行ったことがない	13	25	26	9	1	74
その他（無回答を含む）	1				6	7
合計	112	159	109	12	16	408

ここから、これまで「ほとんど行かない」あるいは「まだ行ったことがない」と回答した236名のうち、41名(17.4%)が、「都合がつけばできるだけ利用したい」と考えていることがわかります。一方、現在、1学期に1回以上学習センターを利用している165名のうちには、「行かなくて済むならば行きたくない」と考えている人はおらず、「用事があるときに行くだけだと思う」と言う人も24名(14.5%)に過ぎません。全体として見れば、現在の利用状況にかかわらず、今後は学習センターを何らかのかたちで利用したいと考えている人が多いことが推測できます。

なお、自由記述欄には、それぞれの質問に対する個別の回答以外に、これまでの学習センターの対応に対して、多くのご批判やご要望も書かれていました。学習センター教職員の間で共有し、今後の運営に役立てたいと思います。

3. サークル・学友同窓会代表からのご意見の概要

2023年12月7日と9日の2日に分けて、10のサークルの代表と、学友同窓会の会長、副会長、幹事の方々にご参加いただき、サークルや学友同窓会の立場から、学生控室の利用方法についてご意見を伺いました。いただいた主な意見は、以下のとおりです(同じ趣旨の意見はまとめています)。

【学生控室について】

- ・学生控室を、内部のテーブルなどの配置を含めて、感染対策が始まる前の状態に戻してほしい。
- ・感染症対策が始まる以前の学生控室のように、仲間といっしょに、食事や会話が気軽にできる状況に戻してほしい。
- ・感染症対策が始まる以前は、学生控室の一部でサークルの冊子の制作など、活動をしていた。その状態に戻してほしい。
- ・学生控室を区切って狭くしたり、手洗いを使用禁止にしたりするのは、感染防止に逆行している。
- ・学生控室に常備されていた備品は現在どこに保管されているのか、教えてほしい。

【講義室等の利用について】

- ・講義室を予約して利用しているが、1回の利用枠が1時間半と短い上に、連続して利用できない。また、予約が取りにくく利用のための手続きも煩雑だ。もっと利用しやすくしてほしい。
- ・面接授業が増えたため、講義室が利用できない場合が増えている。以前は、講義室が使用できない場合は学生控室が使えたが、現在はサークル活動には使用できなくて困っている。学生控室のように、サークル活動に、予約なしでいつでも利用できる場所があるとありがたい。

【その他】

- ・放送大学での「孤独な学習」を補完するために、学生が学習センターを利用できる環境を整えてほしい。
- ・学習センター職員とのコミュニケーションが一方的だ。もっとコミュニケーションが必要だ。
- ・コロナによって制限が設けられることは理解できるが、それを乗り越えるために大学と協力していきたい。
- ・学習センターの利用者が増えないと、サークルの参加者も増えない。
- ・世代や経歴の多様な学生との交流が学習のモチベーションになっている。
- ・学友同窓会のための活動場所がないため、已む無く自宅で作業等を行っている。個人情報を含む資料を個人の自宅で保管することに危機感を持っている。
- ・学生控室についてのアンケートを見たが、素人が作ったもので、学生の意見が反映され得ないひどいものだった。しかも、大学に都合のよい作りになっている。分析のしようがないだろう。

4. 新しい利用方法（2024年4月1日より）

今回のアンケートの結果とサークルや学友同窓会代表とのインタビューで出された意見をもとに、2024年度から、学生控室（多目的室を含む）と会議室・講義室の利用方法を以下のように変更します。

◆学生控室 及び 多目的室の使用について

- 学生控室と多目的室をあわせてひと続きにし、「学生控室・多目的室」として使用する。
手前を学生控室、奥を多目的室とするが、通常その間に仕切りは設けない。
- 学生控室は、9：30～17：30まで利用可とする。
- 学生控室は休憩、食事（弁当等。周囲に迷惑をかけるような行為は禁止）をする部屋とし、食事や休憩をしている人の邪魔にならない程度であれば、2、3名での会食・談話の利用は可とする。
サークルや学友同窓会等、団体の活動のための利用はしない。
- 学生控室内には、引続き、学生が利用できる掲示板を設置するとともに、サークルと同窓会には引続きキャビネットを貸与する。

◆会議室、講義室および多目的室の貸出（予約制）について

○サークルや学友同窓会の活動の場として、会議室、講義室および多目的室を事前予約して使用する。

<会議室、講義室>

利用時間 ①枠 : 10:00~13:00 (3時間)

②枠 : 13:30~16:30 (3時間)

<多目的室>

利用時間 AM枠 : 9:45~11:30 (1時間45分)

PM枠 : 14:00~17:00 (3時間)

※11:30~14:00 は学生控室として開放し、ひと続きの学生控室として使用する。

※多目的室を予約の上使用する際は必ず学生控室との間仕切りをして使用する。(間仕切りの開閉は、使用する団体が行う)

○予約について

【予約枠】

会議室・講義室・多目的室の中から、1団体につき1か月4枠とする。

【予約受付】

予約は、利用日の2か月前の月の1日（この日が閉所日の場合は次の開所日）から利用日当日まで受け付ける。

(例：7月ひと月分の利用予約を5月1日から受け付ける)

【予約方法】

来所およびメールで受け付ける。

参加者名簿は利用当日の提出とする。

◆来所受付の際の「利用許可証と利用報告書」については、取りやめとする。

以上。

2024年3月30日
放送大学京都学習センター